



立命館大学スポーツ健康科学会

2023 年度 総会 議案

■日時： 2023 年 6 月 22 日（木） 12：15～12：50

■会場： R101

■議案

1. 開会
2. 学会長挨拶
3. 議長の選出
4. 【第1号議案】役員の選出.....1
5. 【第2号議案】2022 年度事業報告ならびに 2022 年度決算報告について.....2
6. 【第3号議案】2023 年度事業計画ならびに 2023 年度予算案について.....5
7. スポーツ健康科学会『藍星賞』表彰式.....7
8. 閉会

以上

第 1 号議案

2023 年 6 月 22 日

立命館大学スポーツ健康科学会総会

役員の選出について（案）

立命館大学スポーツ健康科学会会則に基づき、以下の役員を選出する。

	教員会員	院生会員	学生会員
会長	長積 仁		
副会長	塩澤 成弘		
常任委員	橋本 健志 長野 明紀	梶川 颯太 (M2) 加藤 優介 (M1)	木下 百花 (3 回生) 芝山 幹治 (3 回生) 西澤 尚弥 (3 回生) 橋本 海斗 (3 回生) 佐伯 亮 (2 回生) 中村 聡一郎 (2 回生) 山下 優真 (2 回生)
幹事	祐伯 敦史		
監査委員	真田 樹義	松堂 光 (M1)	岡 ひなの (3 回生)

以上

第 2 号議案

2023.6.22

立命館大学スポーツ健康科学会総会

2022 年度事業報告

- (1) 多様な学びへの補助に関して、学会発表やインターンシップなど学会の知の向上に関わる参加費補助、並びに英語力向上(GAT プログラム)の為、Step-up コース：TOEFL 関連講座の受講料・受験料の補助を行いました。
- (2) スポーツ健康科学部の年間の学習活動とも関わる内容も含め、学会誌「立命館スポーツ健康科学」第 13 巻を発刊し、新任教員特集を掲載しました。そして、大学院スポーツ健康科学研究科博士課程前期課程の修士論文の概要、後期課程の博士論文要旨および審査報告書、ホームページにアップした記事をまとめた、スポーツ健康科学部・研究科の 1 年などを掲載しました。卒業式に卒業生へ配布、また manaba+R へ掲載しました。
- (3) 卒業論文優秀者 21 名に対してメダル、及び図書カードを贈呈しました。
- (4) 「スポーツ健康科学」における教育、研究活動を発展させ、この分野で活躍する人財育成の支援を目的として第 5 回藍星賞の候補者募集を行い、4 名の受賞者を発表・表彰しました。
- (5) スポーツ健康科学部は 10 期生が卒業、ならびに博士課程前期課程 12 期生の修了、ならびに同後期課程 9 期生の修了を踏まえ、先生方からの卒業御祝いメッセージ動画を作成し、近日中にメールにて卒業生へ配布予定です。

以上

第2号議案

2022年度決算報告(2022.4.1～2023.3.31)

1. 収入の部

予算			決算		
会費収入	教員会員	432,000	会費収入	教員会員	432,000
	大学院生会員	912,000		大学院生会員	8,304,000
	学部生会員	8,112,000		学部生会員	
前年度繰越金		11,662,494	前年度繰越金		11,662,494
卒業・修了記念P 学生自己負担		300,000	卒業・修了記念P 学生自己負担		0
雑収入	預金利息	400	雑収入	預金利息	391
合計		21,418,894	合計		20,398,885

2. 支出の部

予算			決算	
共通企画		2,180,000	共通企画	65,080
			講演会	0
			学会誌	13,020
			2020年卒業パーティーチケット代返金	3,000
			藍星賞盾	49,060
大学院生企画		250,000	大学院生企画	331,000
			学会参加費補助	331,000
			その他	0
学生企画		1,030,000	学生企画	413,541
			学会参加費補助	175,000
			学習・交流企画(優秀卒論表彰)	238,541
			その他	0
その他		1,100,000	その他	856,534
			学会業務に関わる人件費	855,643
			通信費、予備費など	891
次年度繰越金		16,858,894	次年度繰越金	18,732,730
合計		21,418,894	合計	20,398,885

3. 定期預金

積立年度	金額	口数	保有金額
2014	2,075,000	1	17,575,000
2015	1,500,000	1	
2016	3,000,000	1	
2017	5,000,000	1	
2018	3,000,000	1	
2019	3,000,000	1	

立命館大学スポーツ健康科学会 決算監査報告書

記

2022 年度決算報告書について、帳簿、預金通帳、証憑等を照合した結果、適正に執行・管理
されていることを認めます。

2023 年 5 月 25 日

監査委員 スポーツ健康科学部

教授

真田 樹義 

大学院スポーツ健康科学研究科

博士課程前期課程 2 回生

月舘 朋奥 

スポーツ健康科学部

回生

_____ 印

以 上

第 3 号議案

2023.6.22

立命館大学スポーツ健康科学会総会

2023 年度事業計画について（案）

- （１） これまでと同様に、スポーツ健康科学部の取り組みである 3 回生以降の「ゼミ選択」に向けた取り組みに協力していきます。また、学会の知を高めて行くために、講演会企画、大学院生や学部生の学外学会参加を支援する取り組み、G A T プログラムへ参加する為の英語能力向上のため、TOEFL 関連講座の受講料・受験料を補助します。
- （２） 講演会など、学生会員による活動を企画します。
- （３） 学会誌「立命館スポーツ健康科学」第 14 巻を発行します。
- （４） 卒業論文優秀者に対してメダル・及び図書カードの贈呈をします。
- （５） 第 6 回藍星賞表彰制度について、2023 年 2 月に募集し 4 件の応募がありました。選考の結果 4 名の受賞者が決定し 2023 年度本総会にて受賞者を発表、受賞記念として盾を贈呈します。また第 7 回藍星賞の募集を 2024 年 2 月に行います。次回より研究や国際等の活動のみならず部活動や地域交流、ボランティア等を含む学生の諸活動について表彰する学生部門を設置します。また個人だけでなく団体についても表彰対象とすることを検討します。
- （６） 博士課程前期課程 13 期生の修了、同後期課程 10 期生の修了、そして学部 11 期生の卒業に向けて「卒業・修了記念パーティー」を企画します。

これからも引き続き、学会員の皆様（学生、大学院生、教員）の要望を踏まえた学会活動を展開していきたいと考えております。建設的なご意見やアイデアなどにつきましては、もよりの常任委員、もしくは事務局であるスポーツ健康科学部事務室までお寄せ下さい。

以 上

第3号議案

2023年度予算(案)(2023.04.01～2024.03.31)

1. 収入の部

予算			事業計画、積算根拠
会費収入	教員会員	396,000	12,000円×33名=396,000円
	大学院生会員	848,000	8,000円×(M59名+D47名)=912,000円
	学部生会員	7,920,000	8,000円×990名=7,920,000円
卒業・修了パーティー学生自己負担		324,000	4回生216名×1,500円
預金利息		400	
合計		9,488,400	

2. 支出の部

予算		事業計画、積算根拠
共通企画	3,804,500	講演会、セミナー企画 500,000円 学会誌発行(13巻,14巻) 1,353,000円 2023年度卒業記念パーティー 1,500,000円 藍星賞盾 50,000円 2022年度卒業記念動画 401,500円
大学院生企画	550,000	学会参加費補助 500,000円 その他 50,000円
学生企画	730,000	学会参加費補助 100,000円 インターンシップ 参加費補助 300,000円 GAT Step-Up Program 補助 100,000円 卒業論文優秀者の表彰 230,000円
積立金	0	定期預金へ
その他	1,000,000	学会業務に関わる人件費
	10,000	通信費など
合計	6,094,500	
次年度繰越金	3,393,900	(収入)-(予算)

第 4 号議案

スポーツ健康科学会『藍星賞』表彰について

藍星賞表彰制度により、第 6 回受賞者を下記のとおり決定し、表彰式を執り行うこととする。

藍星賞とは、人材育成、研究成果発信の好循環をより促進することを願い、本学会として「スポーツ健康科学」分野において、教育ならびに研究において顕著な業績・功績をあげた若手を中心とした教職員・学生を顕彰する表彰制度である。

記

【2022 年度藍星賞受賞者】

	受賞者
1. 研究部門	前大 純朗
2. 研究部門	松村 哲平
3. 教育部門	松田 祐一
4. 国際部門	山本 和広

1) 前大 純朗 氏

前大氏は、筋力や筋量の増加に効果的なトレーニングの方法や、アスリートの運動パフォーマンスの規定因子に関する研究を精力的に進めており、これまでに査読付き国際学術誌に 40 本以上の論文を掲載している。2022 年度においても、6（筆頭 1、共著 5）本の論文が掲載され、2023 年 2 月時点で他にも 4（筆頭 1、共著 3）本の論文が査読中である。また、研究費の獲得にも積極的であり、科研費（基盤 B、他）や民間の助成金（ヤマハ発動機スポーツ振興財団、他）など、研究代表者としてこれまでに 4,000 万円以上の競争的外部資金を獲得している。加えて、地域連携講座や滋賀県立草津東高校体育科 1・2 年生へ向けた特別授業など、研究成果をスポーツの現場で講演・実践指導するなど、本学部のアウトリーチ活動に貢献している。以上の理由から、前大氏は藍星賞に相応しい人物であると判断し、推薦する次第である。

2) 松村 哲平 氏

松村哲平さんは、学部生時に卒業論文として遂行した研究成果を、本学のハイインパクトジャーナルに分類されているスポーツ医学会の格調高い国際誌 *Medicine & Science in Sports & Exercise* 誌に、筆頭著者として、「Acute Effect of Caffeine Supplementation on 100-m Sprint Running Performance: A Field Test」と題して発信しました。これまで、カフェインがスポーツ競技力向上に効果的であることは報告されていましたが、陸上競技の 100 m 走に対する有効性は検討されていませんでした。松村さんたちは、100 m 走に対するカフェイン摂取の急性効果を、しっかりと統制された条件の下、実際の 100 m 走のフィールドテストにて実証しました。その成果は、NHK のニュースにも取り上げられ、全国的に大変な反響を呼んでおります。

松村哲平さんは、現在大学院博士課程前期課程2回生として在籍し、引き続き、カフェインの身体運動能力に対する効果を、急性の摂取量やカフェイン摂取習慣なども考慮して検討しております。その成果もまた、同上の国際誌に投稿し、現在は査読中でございます。さらに現在は、カフェインの作用機序を、分子レベルで検討する基礎研究にも着手しております。

将来は、スポーツ科学のエビデンスを現場に応用・還元すべく、基礎研究と応用研究を往還する最先端の研究を展開していきたいと標榜しており、次世代研究大学としての本学を牽引する、まさに次世代の研究者として、今後の活躍が大いに期待できる人物です。また、スポーツ健康科学部生時代は、1回生時から最終学年時まで、連続して西園寺記念奨学金を受賞していることから、スポーツ健康科学部・研究科生として、今後のロールモデルとなる人物でもあり、同世代や次世代の学部生ならびに研究科生に対する波及効果は計り知れません。

以上より、松村哲平さんは藍星賞（研究部門）を受賞するのに相応しい人物でございます。

3) 松田 祐一 氏

松田氏は立命館慶祥高校ラグビー部の監督として、創部26年目に北海道大会において強豪札幌山の手高校に18対7で勝利し、念願の全国大会（花園出場）の切符をつかんだ。

ご存じのように、札幌山の手高校は、選手のリクルート、練習時間を含めて、スポーツ強化に熱心な高校であり、一方で立命館慶祥高校は、進学校かつ練習時間の制約がある。その中で、松田監督の指導は、従来の強豪校、スポーツ強化校にはない考え方があり、その指導スタイルの変革が今回成果をもたらし、新しい指導スタイルを示すことになった。

監督が練習メニューを決め、支持を出す練習から、生徒たちがミーティングを重ね、自分たちで何が課題で今何をやるべきかを話し合いながら主体的に練習に取り組む形に変えた事である。試合においても監督が指示を出すのではなく、選手自らが考え判断するスタイルに変わり、今回の全国大会につながった。自分の指導スタイルを変え、向上心を持って指導に当たる姿勢は素晴らしい。

これからも良き指導者としてますますの活躍が期待され、藍星賞の教育部門に相応しいと判断し推薦申し上げます。

4) 山本 和広 氏

山本和広さん（シアトル・マリナーズ）は、本学部のGATプログラム2期生として、East Stroudsburg Universityの修士課程に進学。コロナ禍の2020年7月、米国のアスレティックトレーナー資格（ATC）を取得後、アスレティックトレーナーとして、全米大学体育協会一部リーグに所属する大学や、Ball State Universityのダンス演劇学科で、舞台芸術に関わる学生を担当してきた。

そして現在、マニュアルセラピストとしてメジャーリーグ（MLB）のシアトル・マリナーズに加入。メディカルスタッフの一員として全162試合に帯同し、同球団所属メジャーリーグの治療を担当している。

山本さんは在学中より、GATプログラムの他、海老ゼミで日本の食文化とスポーツ栄養学を学び、BKC国際寮でのレジデントメンターや、国立スポーツ科学センターでインターンを経験するなど、興味関心とその活動は多岐に渡っていた。

山本さんがマリナーズへの採用が決まった際のコメント「球団からは、スポーツ健康科学部で学んだ学際的な視点や、舞台芸術医療での経験、さらには国際的な文化的背景を高く評価して頂いた。球団から、『野球で長年やってきた私たちにはない経験を、シアトル・マリナーズで発揮してほしい』と言われ、多種多様な専門家が集まるこの球団でこれからどんな挑戦ができることかをととても楽しみ

にしている」に象徴されるように、スポーツ健康科学部の学びを、世界のスポーツの世界へ発信する卒業生の代表として、山本和広さんを『藍星賞』に推薦する。

以上